

## 海域の概要

本湾は、長崎県北地域の中央に位置する湾で、湾西部の針尾瀬戸および早岐瀬戸で大村湾と通じています。湾内は水深が深く、天然の良港となっています。



佐世保湾

## Specification

### 諸元

湾口幅：2 3 9 k m

面積：4 2.9 8 k m<sup>2</sup>

湾内最大水深：2 5m

湾口最大水深：2 5m

閉鎖度指標：2 7 4

備考：環境基準類型指定水域

## Location

### 範囲または位置

長崎県佐世保市観汐橋、同市と西彼杵郡西彼町を結ぶ西海橋、同郡西海町寄舟崎と佐世保市高後崎を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。

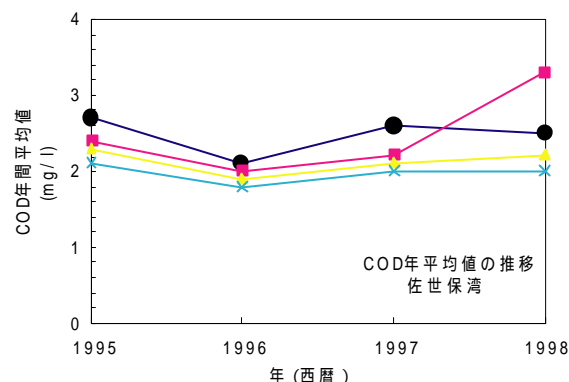


## 環境

佐世保湾は東シナ海と幅 1 km 程度の水道でつながり、また湾奥では大村湾ともつながっています。

西九州海洋型気候区に属し、年間を通じて北の風が多い気象となっています。流入河川はほとんど無く、北の支湾に佐世保港があり、水質環境に影響を与えています。

水質は全般に良好とはいえ、COD 年平均值では、2~3mg/l 程度で変動しています。



## 自然

佐世保湾は、リアス式の海岸で一般に水深が深く天然の良港となっています。湾口部は、その北側に続く九十九島を擁する西海国立公園の一部に指定されています。

湾口付近にはホンダワラ類を中心とする藻場が分布しますが、湾奥に藻場はほとんど分布していません。

佐世保市街に近い佐世保公園と隣接する米軍管理のニミツパークが開放され、佐世保の夏を代表する「西海アメリカンフェスティバル」が開催され、20万人以上の入出で賑わいます。



佐世保公園

## 文化歴史

佐世保湾は、古くは安土桃山時代から大村藩主が港をひらき、ポルトガル船が入港するなど南蛮貿易港として栄えました。その後、一時衰退しましたが、江戸時代に入ると平戸藩が異国船を取締り、難破船救助のため高後崎に船番所を設置するなどにより街が栄え、明治に入ると旧帝国海軍により明治22年から軍港として巨額の国費と技術の粋を集中して開発が行われ、以来軍港施設は年々整備拡張されました。また、終戦時には大陸からの引き上げ港ともなりました。

戦後は平和産業港湾都市として発展し、「造船」、「炭鉱」を経て、現在は製造業とともに、県北地域の商業サービス業の中心となっています。

また、昭和30年に指定を受けた西海国立公園や平成4年オープンハウステンボスなどのアメニティリゾートが整備され、毎年多くの観光客を魅了しています。

## 産業

佐世保市の水産業は、ほとんどが5トン未満の小型漁船による沿岸漁業で、中小型まき網、一本釣、刺網を中心とする漁船漁業と、ハマチ、マダイ、カキを主とする海面養殖が盛んに行われています。

特に、カキ養殖の生産は県内随一です。一方、漁業資源の増殖を図るため、佐世保市水産センターで生産されるクルマエビ、アワビ、ウニ等の種苗の放流を積極的に行っています。

佐世保港は、自衛隊や米軍の艦船が多く、造船業が主な工業となっています。



佐世保ドック